

【運営方針】

「少しでも 長く元気で 自分らしい生活を」

【基本方針】

介護の原点に戻り、ふるさとの理念に基づいたサービスの質の向上に取り組む
安心して生活できる施設、安心して働ける職場を目標に、より良い人間関係の構築に
努める

【年間目標】

- ① 感染症・災害発生時の対応力の強化
- ② 稼働率の向上（稼働率 97.5%）
- ③ 自立支援、重度化防止の取組推進
- ④ 介護・医療・家族の連携
- ⑤ 介護人材の確保、現場の革新

【実践計画】

① 感染症・災害発生時の対応力の強化

- ・現在の感染症対策を見直し、新型コロナウイルス発生時のシュミレーションを6月・12月に実施。職員の動線・必要物品の再確認を行い、各居室に応じた感染症対策を確立する
- ・基本的なガウンテクニック、手洗い方法に関する勉強の機会を2か月に1度（偶数月会議後）に持ち、繰り返すことで感染症発生時の対策をスムーズに行えるよう準備を行う
- ・非常時の職員の動きを再確認し、非常時においても最低限の介護業務だけでなく入居者が安心して楽しみをもって生活が送れる体制を図上訓練において確立する。

② 稼働率の向上（目標稼働率 97.5%）

- ・入居希望者の情報をいち早く取得する為、同法人内地域包括支援センター、居宅介護支援事業所職員に空床発生予測を常に伝え希望者がスムーズに入居できるよう情報交換を行う
- ・市内地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に対して空床予測をFAXで送付し、定期的にパンフレット・料金表をメール便等で送る事で認知度を上げる
- ・近隣の老人保健施設担当者との連携を強化し老人保健施設退所後の居場所、老人保健施設への再入居期間リセットの場所としてベッドの活用を進めていく
- ・ケアプラン作成の為のアセスメント時に室内環境にも着目し、必要であれば居室への手すりの設置、福祉用具の購入を勧め転倒が起因による入院を減らす
- ・主治医との連携を密に行い早期受診・早期治療を行う事で入院を防ぎ稼働率の低下

を防ぐ

② 自立支援、重度化防止の取組推進

- ・既存のタイムスケジュールを見直す。10時30分に実施しているラジオ体操以降、昼食時までの間に日替わりでレクリエーション等のプログラムを実施し、入居者様が居室から出て過ごして頂く機会を設ける
- ・毎月実施している施設内行事に加え外出行事を毎月実施する。ボランティアも積極的に受入、入居者様にメリハリのある生活を過ごして頂ける施設生活を目指す
- ・各入居者様の水分摂取量の把握を配茶時・配薬時・食事時に分けてチェックを行い、現状の1日の水分摂取量を把握。平均値から個々の摂取目標を設定し、摂取量1500ccを目指す

③ 家族・医療・介護の連携

- ・現在行っているオンライン面会を継続し、遠方で面会に来る事ができないご家族様に対しても積極的に利用を勧め、面会が出来ない状況でも入居者様が安心して頂けるよう配慮する。
- ・入所時から看取りまで一貫した医療ケアを受ける事ができるよう、医療機関との連携を図り必要に応じて主治医の変更を行い、入居者様安心して生活ができる医療体性を個別に提供する

⑤ 介護人材の確保、現場の革新

- ・新人職員を指導する職員向けのマニュアルを中堅職員主導で作成・整備し、指導内容の平準化を図る
- ・対面での申し送りだけでなく、インカムを活用して申し送りに参加する事で職員の移動負担を減らし、情報発信の一元化・効率化を図る
- ・部署内の連絡手段にLINEWORKSを活用し、感染症発生時・災害発生時等、有事の際の連絡をスムーズに行える体制を整える

(令和4年度勉強会予定)

4月	事故対策（緊急時の対応）
5月	接遇について（介護施設における接遇マナー）
6月	感染症対策について（感染症発生時の対応シュミレーション）
7月	高齢者に多い疾患について
8月	介護技術（点眼・服薬介助の注意点）
9月	ケアプランについて（アセスメント・モニタリング）
10月	防災について（防災設備について）
11月	介護技術（移乗・ポジショニング）
12月	感染症対策について（ノロ・インフルエンザ・シュミレーション）
1月	接遇について（ビジネスマナー）
2月	事故対策（心肺蘇生・AED）
3月	認知症ケアについて